ニーズに応じた特色ある農業と担い手の育成

大刀洗町の基幹産業は農業です。総面積の64％が農地であり、農地約1，400haのうち約950haが、土地改良事業をおこなった優良農地となっています。

生産されている農産物は主に米や麦ですが、南東部の筑後川流域では露地野菜のレタス、ホウレンソウ、ダイコンなどが、また施設園芸も盛んで青ネギ、小松菜、水菜などが生産されています。また、北部では植木が生産されています。

現在、本町の農業は変革の時にあり、従来からの露地野菜生産農家も数多くありますが、米・麦・大豆作を中心とした土地利用型農業と、施設園芸を中心とした軟弱野菜・花などの生産に特化されてきています。

土地利用型農業では、集落参加型の営農集団が現在9団体活動しています。その中でも、下高橋生産組合は平成8年に設立され、約125haを関係面積とする全国でも有数の大規模生産集団です。大型機械を導入し、地域の担い手として活躍しており、平成13年には大豆生産部門における農林水産大臣賞を受賞されました。

施設園芸では、みい農協主導により平成6年三川地区に平成団地として鉄骨ハウス・パイプハウス約40棟が建設され施設園芸展開への先鞭をつけています。現在は、春日・甲条地区周辺にパイプハウス約50棟が建設されており、軟弱野菜の青ネギ、小松菜、水菜、花のガーベラなどが生産されています。

農業就労者の高齢化は年々進み、担い手農家の育成及び確保が大きな課題となっています。そこで、認定農業者制度を利用した認定農家で構成する認定農業者の会や、将来の農業の担い手である「大刀洗4Hクラブ」などが、人材育成や農業を巡る環境の改善に取り組んでいます。特に『大刀洗4Hクラブ』の活躍ぶりはめざましく、福岡県青年農業者会議の意見発表等において優秀な成績を収めており、全国大会にも数多く出場しています。

私たち４Ｈクラブは、主に地域に密着した活動に取り組んでいます。活動内容として、菊池小学校近くの畑でサツマイモを栽培し、町内保育園児に芋掘り体験をしてもらったり、ドリームまつりに野菜等のバザー出店、７団体交流会として２月のひばりロードふれあいマラソン大会で選手、応援者の方々に熱々の豚汁やおにぎりの提供を行ったりしています。

また、今年は新たにトウモロコシの栽培、販売に取り組み、関係機関の協力もあり、地域の皆さんに大好評を得ることができました。この取り組みは、クラブ員の経営者としての視野を広げ、今後の農業経営に生かせる内容だったと思います。

今年、大刀洗町は50周年という節目を迎えますが、この町の基幹産業である農業をさらに発展させるために、新しい発想と柔軟な考え、技術の向上を目指し、さらに50年後は農業と共に発展した大刀洗町を背負っていけるような人材作りに取り組んでいきたいと思います。

４Ｈクラブ　古賀龍一

私は稲作１．１ha、玉レタス５．５haを生産している専業農家です。レタスを作り始めて30年になりますが、結球する野菜の中でこれほど気象条件に左右されやすく、作りにくい野菜はないと思っていますが、それ以上にやりがいもあります。

私はＪＡみい大刀洗共選協議会のレタス部会員ですが、協議会全体の目標でもあります「当日出荷、翌日販売」で、新鮮な野菜を消費者に提供していきたいと思っています。輸入野菜の氾濫、低価格と生産者にとって厳しい課題はたくさんありますが、これからの大刀洗の農業発展のため、より高い大刀洗ブランドの農産物として、レタス作りに頑張っていきたいと思います。

中川　平田正夫

消費者が安心して飲める、おいしく、安心、安全な牛乳生産に努めています。そのためには、牛の健康管理が一番大切なので、毎日十分に注意しながら仕事をしています。

朝、夕2回の飼餌、搾乳、仔牛の哺育、除糞が主な仕事で、他に水稲や飼料作物の生産を行っています。

また、牛の糞尿を発酵させて堆肥を生産し、無人販売所で1袋100円で販売しています。家庭菜園、ガーデニング等に喜んで使ってもらっています。

酪農は生き物を飼育していく年中休みのない職業ですが、ヘルパーを利用することにより、家族での旅行や休日を楽しむことが出来ています。

今後は、現状の150頭規模で年間1，000tの生乳出荷を目標に、家族ちからを合わせて頑張りたいと思います。

現在、牛乳の消費が減少しています。牛乳にはアミノ酸、ミネラル、脂肪や糖分等の栄養素がバランス良く入った飲物です。健康、骨粗鬆症の予防のために牛乳をたくさん飲んで下さい。　山隈　安丸實義

私の所では、切花のガーベラ3，500坪、水田45aを経営している専業農家です。

経営の中心であるガーベラは、年間300万本の出荷を目標に札幌、東京、広島などに「JAみいガーベラ研究会」を通じて販売を行っています。

町内の5戸の切花生産者と営農集団「花工房大刀洗」を設立、平成16年度の活力ある高収益型園芸産地育成事業を活用し、省力栽培温室13，253㎡を建設しました。台風に強いハウスの導入により、経営規模拡大や栽培期間が広がり、経営の安定を図っています。

今後も行政、JAのご指導、ご協力のもと、消費者のニーズを適格に読みながら、個性ある品種の栽培などに取り組み、大産地に負けない特色のある産地づくりを目指します。そして、切花生産を通じて皆様方に笑顔で購入してもらえるようなガーベラ栽培を行っていきたいと思います。

甲条　牛島博文

私達、下高橋生産組合は平成８年の設立以来10年を迎え、組合員約１００名で構成、面積約１２５haを水稲・麦・大豆でブロックローテーションしています。平成19年より国の農業政策が大きく変わり、今までの一個人の小規模農業や生産組合では大豆、麦を生産してもそれの補助金・交付金が受けられないということで、組合員の財産を守っていくためには、当組合も法人化しなければならない状況となりました。

ひとくちに法人化と言いましても、とても難しい問題ですので、役員一同視察研修や学習会を兼ね、久留米地域農業改良普及センター、ＪＡや行政からご指導、ご協力いただき一生懸命努力をしていきたいと思っています。

また、法人化した後には、大豆加工・花・野菜など地域の人々と連携を図り、時代に応じた農業を行っていきたいと思っております。

下高橋生産組合　中山信行

私はＪＡみいの無人ヘリ部会に所属し、オペレーターという立場でＪＡ管内の水稲、麦、大豆の農薬散布の作業受託を行っています。作業ほ場では他のオペレーターと連携を図り、特に安全面には十分気をつけ、現在３年目になりますが無事故で、徐々にではありますが作業効率も上がってきています。

まちの基幹産業である農業の未来を引き継ぐためには、今後ますます進むと思われる後継者不足や農家の高齢化への対応が必要です。機械化という点で無人ヘリは大変有効ですが、まだコスト面において課題もあります。それをクリアしていくためにも無人ヘリのもつ省力化・効率化という能力を最大限引き出せるように、土地の集約や栽培作物のブロック化を地域の方々の理解を得ながら、ＪＡや役場と協力して少しずつ進めていこうと思います。

甲条　森田真一